



# Sun Fire X2200 M2 サーバーご使用 にあたって

---

Sun Microsystems, Inc.  
[www.sun.com](http://www.sun.com)

部品番号 819-7514-10  
2006年8月、改訂A

本書に関するコメントは、次の宛先までお送りください。<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2006 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. は、本書に記載されている技術に関連する知的所有権を所有しています。特に、これに限定されず、これらの知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されている1つまたは複数の米国特許、米国ならびに他の国における1つまたは複数の特許または申請中の特許が含まれます。

本書および本製品は、その使用、複製、再頒布および逆コンパイルを制限するライセンスに基づいて頒布されます。Sun Microsystems, Inc. またはそのライセンス許諾者の書面による事前の許可なくして、本書または製品のいかなる部分もいかなる手段および形式によっても複製することを禁じます。

本製品に含まれるサードパーティソフトウェア(フォントに関するテクノロジーを含む)は、著作権を有する当該各社より Sun 社へライセンス供与されているものです。

本製品の一部は、Berkeley BSD systems に由来し、University of California からライセンスを受けています。UNIXは、X/Open Company, Ltd. の米国ならびに他の国における登録商標で、X/Open Company, Ltd. が所有する独占的ライセンス供与権に基づいて、Sun 社にライセンス供与されています。

Sun, Sun Microsystems, Sun のロゴマーク、Java, Sun Fire, docs.sun.com, Solaris は、Sun Microsystems, Inc. の米国 およびその他の国における商標または登録商標です。

SPARC の商標はすべて、ライセンス契約に基づいて使用されており、SPARC International, Inc. の米国 およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標の付いた製品には、Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャが採用されています。

OPEN LOOK および Sun™ グラフィカルユーザーインタフェースは、Sun Microsystems, Inc. がユーザーおよびライセンス被許諾者のために開発したものです。Sun 社は、ビジュアルまたはグラフィカルユーザーインタフェースの概念を先駆的に研究、開発し、コンピュータ業界に貢献した Xerox 社の努力を高く評価いたします。Sun 社は、Xerox グラフィカルユーザーインタフェースに対する非独占的ライセンスを Xerox 社から受けています。このライセンスは、OPEN LOOK GUI を採用する Sun 社のライセンス被許諾者に対しても適用されます。また適用されない場合でも、それらライセンス被許諾者は Sun 社のライセンス契約文書に遵守することとなります。

米国政府の権利—商用。政府関連のユーザーは、Sun Microsystems, Inc. の標準ライセンス契約、および FAR とその補足条項に従う必要があります。

本書は、「現状のまま」の形で提供され、法律により免責が認められない場合を除き、商品性、特定目的への適合性、第三者の権利の非侵害に関する暗黙の保証を含む、いかなる明示的および暗示的な保証も伴わないものとします。

---

Copyright 2006 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, Californie 95054, États-Unis. Tous droits réservés.

Sun Microsystems, Inc. possède les droits de propriété intellectuelle relatifs à la technologie décrite dans ce document. En particulier, et sans limitation, ces droits de propriété intellectuelle peuvent inclure un ou plusieurs brevets américains listés sur le site <http://www.sun.com/patents>, un ou les plusieurs brevets supplémentaires ainsi que les demandes de brevet en attente aux les États-Unis et dans d'autres pays.

Ce document et le produit auquel il se rapporte sont protégés par un copyright et distribués sous licences, celles-ci en restreignent l'utilisation, la copie, la distribution, et la décompilation. Aucune partie de ce produit ou document ne peut être reproduite sous aucune forme, par quelque moyen que ce soit, sans l'autorisation préalable et écrite de Sun et de ses bailleurs de licence, s'il y en a.

Tout logiciel tiers, sa technologie relative aux polices de caractères, comprise, est protégé par un copyright et licencié par des fournisseurs de Sun.

Des parties de ce produit peuvent dériver des systèmes Berkeley BSD licenciés par l'Université de Californie. UNIX est une marque déposée aux États-Unis et dans d'autres pays, licenciée exclusivement par X/Open Company, Ltd.

Sun, Sun Microsystems, le logo Sun, Java, Sun Fire, docs.sun.com, et Solaris sont des marques de fabrique ou des marques déposées de Sun Microsystems, Inc. aux États-Unis et dans d'autres pays.

Toutes les marques SPARC sont utilisées sous licence et sont des marques de fabrique ou des marques déposées de SPARC International, Inc. aux États-Unis et dans d'autres pays. Les produits portant les marques SPARC sont basés sur une architecture développée par Sun Microsystems, Inc.

L'interface utilisateur graphique OPEN LOOK et Sun™ a été développée par Sun Microsystems, Inc. pour ses utilisateurs et licenciés. Sun reconnaît les efforts de pionniers de Xerox dans la recherche et le développement du concept des interfaces utilisateur visuelles ou graphiques pour l'industrie informatique. Sun détient une licence non exclusive de Xerox sur l'interface utilisateur graphique Xerox, cette licence couvrant également les licenciés de Sun implémentant les interfaces utilisateur graphiques OPEN LOOK et se conforment en outre aux licences écrites de Sun.

LA DOCUMENTATION EST FOURNIE "EN L'ÉTAT" ET TOUTES AUTRES CONDITIONS, DÉCLARATIONS ET GARANTIES EXPRESSES OU TACITES SONT FORMELLEMENT EXCLUES DANS LA LIMITE DE LA LOI APPLICABLE, Y COMPRIS NOTAMMENT TOUTE GARANTIE IMPLICITE RELATIVE À LA QUALITÉ MARCHANDE, À L'APTITUDE À UNE UTILISATION PARTICULIÈRE OU À L'ABSENCE DE CONTREFAÇON.



Adobe PostScript

# Sun Fire X2200 M2 サーバーご使用 にあたって

---

本書では、Sun Fire X2200 M2 サーバーの最新情報と問題を説明します。

本書で説明する問題は次のとおりです。

- 2 ページの「ハードウェアと BIOS」
- 3 ページの「システム管理の一般的な問題」
- 6 ページの「システム管理の WebGUI またはリモートコンソールの問題」
- 9 ページの「システム管理のブラウザに関する問題」
- 11 ページの「診断の問題」
- 12 ページの「Solaris の問題」
- 13 ページの「Linux の問題」
- 14 ページの「ドキュメントの問題」

---

# ハードウェアと BIOS

次の問題は、Sun Fire X2200 M2 サーバーハードウェアや BIOS に適用されます。

このセクションでは、次の問題について説明します。

- [2 ページの「Emulex HBA のエラー」](#)
- [2 ページの「DDR2-667 DIMM」](#)
- [2 ページの「前面 USB ポートのケーブルの制限」](#)
- [2 ページの「シングルビット ECC エラーが存在すると POST でシステムがハングする」](#)
- [3 ページの「PowerNow! のサポート」](#)

## Emulex HBA のエラー

Emulex 製のホストバスアダプタ (HBA) を使用していると、SEL ログにバスの修正不可能なエラーが表示されます。この問題をテストしても、機能上の問題は見つかりませんでした。

## DDR2-667 DIMM

1 つの CPU に 4 つ以上の DIMM を設定した場合、CPU のメモリーのクロック数が 533MHz に低下します。

## 前面 USB ポートのケーブルの制限

前面 USB ポートでは、デバイスへの接続に 3 メートルのケーブルしか対応していません。

## シングルビット ECC エラーが存在すると POST でシステムがハングする

システムの POST にシングルビット ECC エラーが存在すると、システムがブートせず、何も出力が表示されなくなります。この問題は今後の BIOS の改訂で修正される予定です。

# PowerNow! のサポート

PowerNow! と Linux の既知の問題により、システムの BIOS ではデフォルトで自動的に PowerNow! を無効にします。

---

## システム管理の一般的な問題

次の問題は、Sun Fire X2200 M2 サーバーの Embedded Lights Out Manager サービスプロセッサ (Embedded LOM SP) に適用されます。Embedded LOM の詳細については、オンラインの『Embedded Lights Out Manager 管理ガイド』を参照してください。

このセクションでは、次の問題について説明します。

- 3 ページの「セキュリティの危険性：リモートコンソールが自動的に閉じない」
- 3 ページの「シリアルコンソールの Sun のスプラッシュ画面が表示されない」
- 4 ページの「仮想 CD-ROM をアンマウントした後、ネットワークブートがブート順の最上位に移動する」

### セキュリティの危険性：リモートコンソールが自動的に閉じない

次の状況ではリモートコンソールが自動的に閉じないため、リモートコンソールのウィンドウを必ず閉じてください。

- WebGUI がタイムアウトになったとき
- WebGUI からログアウトするとき

この問題は現在調査中です。

### シリアルコンソールの Sun のスプラッシュ画面が表示されない

システム出力を見るためにコンソールを起動すると、スプラッシュ画面が表示されないため、F2 キーを押して BIOS に入るように要求するメッセージが表示されません。

スプラッシュ画面を無効化するには、次の手順に従います。

1. F2 キーを押して BIOS セットアップユーティリティを開きます。

2. 「Boot (ブート)」 → 「**Boot Setting Configuration (ブート設定構成)**」を選択します。
3. ブート設定を `quiet boot - disable` に設定します。

これにより、F2 キーを押せというメッセージが表示されるようになります。

## 仮想 CD-ROM をアンマウントした後、ネットワークブートがブート順の最上位に移動する

仮想 CD-ROM をアンマウントした後、ネットワークが CD-ROM (ある場合) に代わってブート順の最上位に移動します。

対処方法: BIOS に入ってブート順を変更します。

この問題は現在調査中です。

---

## システム管理の仮想デバイスに関する問題

次の問題は、Embedded LOM のリモートコンソールシステムに接続されている仮想デバイスに関連しています。Embedded LOM の詳細については、オンラインの『Embedded Lights Out Manager 管理ガイド』を参照してください。

このセクションでは、次の問題について説明します。

- 5 ページの「仮想 CD-ROM が SLES 9 SP3 にマウントされていないように見える」
- 5 ページの「一部の仮想 USB フラッシュデバイスが Solaris にマウントされない」
- 5 ページの「仮想ストレージデバイスが読み込めない」
- 5 ページの「Solaris 上の Mozilla や Firefox でアンマウントを行なうと、仮想デバイスがマウントされないことがある」
- 6 ページの「Solaris 上の WebGUI 内に複数のデバイスをマウントできない」

## 仮想 CD-ROM が SLES 9 SP3 にマウントされていないように見える

SLES 9 SP3 システム上でリモートコンソールを起動すると、CD のマウント時にポップアップダイアログボックスが表示されないため、仮想 CD-ROM がマウントされていないように見えます。SLES 10 では、この問題への対処が改善されています。

対処方法: /media ディレクトリから仮想 CD-ROM にアクセスします。

## 一部の仮想 USB フラッシュデバイスが Solaris にマウントされない

一部の USB フラッシュデバイスでは、Embedded LOM に仮想デバイスがマウントされたように見えても、実際はマウントされません。

この問題は現在調査中です。

## 仮想ストレージデバイスが読み込めない

Solaris オペレーティングシステム上で、Mozilla または Firefox で WebGUI を使用していると、場合によって仮想ストレージデバイスが読み込めないことがあります。

対処方法: ブラウザを再起動します。

この問題は現在調査中です。

## Solaris 上の Mozilla や Firefox でアンマウントを行なうと、仮想デバイスがマウントされないことがある

場合によって、仮想デバイスをアンマウントした後に、再マウントされないことがあります。

対処方法: リモートコンソールが動作しているシステムをリブートします。

この問題は現在調査中です。

## Solaris 上の WebGUI 内に複数のデバイスをマウントできない

Solaris オペレーティングシステム上で Mozilla または Firefox を起動している場合、マウント可能なデバイスは常に 1 台のみです。

この問題は現在調査中です。

---

## システム管理の WebGUI またはリモートコンソールの問題

次の問題は、Embedded LOM のリモートコンソール WebGUI に関連しています。Embedded LOM の詳細については、オンラインの『Embedded Lights Out Manager 管理ガイド』を参照してください。

このセクションでは、次の問題について説明します。

- 6 ページの「Firefox 上でリモートコンソールを起動するにはポップアップブロックを無効化する必要がある」
- 7 ページの「リモートコンソールを起動すると画面が白くなる」
- 7 ページの「Solaris と Linux オペレーティングシステムで、WebGUI のリモートコンソールが閉じることがある」
- 8 ページの「ルートでないリモートコンソールを起動できない」
- 8 ページの「Solaris でのリモートコンソールマウスのパフォーマンス」
- 8 ページの「WebGUI にログインすると最前面のウィンドウに「Hostname Mismatch (ホスト名の不一致)」ダイアログボックスが表示されない」
- 9 ページの「仮想 CD-ROM を使用した Solaris のリモートインストール中に、SP の接続性が失われることがある」

## Firefox 上でリモートコンソールを起動するにはポップアップブロックを無効化する必要がある

Embedded LOM の WebGUI でリモートコンソールを実行しているブラウザでポップアップブロックを有効にしていると、Firefox でリモートコンソールの起動がブロックされます。リモートコンソールが表示されない場合は、内蔵のポップアップブロックでブロックされているかどうかを確認してください。

## リモートコンソールを起動すると画面が白くなる

場合によって、Solaris 10 または Windows システムで Mozilla や Firefox ブラウザを使用していると、リモートコンソールの起動後にウィンドウが真っ白になることがあります。

**Solaris 10 での対処方法:** Solaris オペレーティングシステムをリブートします。

**Windows での対処方法:** ActiveX プラグインをインストールします。

1. 最新の ActiveX プラグイン (mozactivex-ff-15.xpi) を、次の URL から取得します。  
`http://iol.ie/~locka/mozilla`
2. Firefox 1.5 ブラウザを開き、mozactivex-ff-15.xpi ファイルを保存場所から開いたブラウザにドラッグします。  
OCX が自動的にインストールされます。
3. `C:\installation_path\defaults\perf\activex.js` のファイルを開きます。  
デフォルトのパスは、`c:\program files\Mozilla FireFox\defaults\perf\activex` です。
4. `pref("security.classID.allowByDefault", false)` を、  
`pref("security.classID.allowByDefault", true)` に変更します。
5. テキストファイルを保存し、テキストエディタを終了します。
6. ブラウザを再起動します。
7. 「ツール」 → 「オプション」を選択し、「コンテンツ」をクリックします。
8. 「コンテンツ」ページで、「Java を有効にする」と「JavaScript を有効にする」がオンになっていることを確認します。

## Solaris と Linux オペレーティングシステムで、WebGUI のリモートコンソールが閉じることがある

場合によって、WebGUI が突然閉じることがあります。

対処方法: ブラウザを再起動し、WebGUI にログインし直します。

## ルートでないリモートコンソールを起動できない

リモートコンソールシステム上で Solaris を実行している場合、リモートコンソールを起動するためには root (スーパーユーザー) としてオペレーティングシステムにログインします。

この問題は現在調査中です。

## Solaris でのリモートコンソールマウスのパフォーマンス

Solaris 10 オペレーティングシステム上でリモートコンソールを実行していると、マウスのパフォーマンスが低下することがあります。

この問題に対処するには、次の手順に従います。

1. X2200 への接続に使用しているリモートシステム上の端末ウィンドウに、次のコマンドを入力します。

```
type `xset m 1 1`
```

2. ブラウザを起動して WebGUI にログインします。  
これでマウスのパフォーマンスの問題が解決するはずです。

## WebGUI にログインすると最前面のウィンドウに「Hostname Mismatch (ホスト名の不一致)」ダイアログボックスが表示されない

WebGUI にログインすると、「Hostname Mismatch (ホスト名の不一致)」ダイアログボックスが数秒間だけ最前面に表示され、その後 WebGUI ウィンドウの後ろに移動します。「Hostname Mismatch (ホスト名の不一致)」ダイアログボックスで「Run (実行)」をクリックしないと、他のダイアログボックスを閉じるまで、WebGUI がマウスをクリックしても反応しなくなります。

対処方法: WebGUI ウィンドウを最小化し、ダイアログボックスで「Run (実行)」をクリックします。

この問題は現在調査中です。

## 仮想 CD-ROM を使用した Solaris のリモートインストール中に、SP の接続性が失われることがある

この問題が発生するのは、ごく一部のリモートインストールの場合のみです。接続性が失われる場合は、新しくインストールを行う必要があります。

この問題は現在調査中です。

---

## システム管理のブラウザに関する問題

このセクションでは、次の問題について説明します。

- [9 ページの「サポートされている最低限のブラウザ」](#)
- [10 ページの「各ブラウザでの Java Runtime Environment の設定」](#)
- [10 ページの「ストリーミングビデオと KVMs Over IP」](#)
- [10 ページの「SP の CLI コマンドによるシステムの時刻」](#)

## サポートされている最低限のブラウザ

次の表で、Solaris および Linux オペレーティングシステム上の Sun Fire X2200 M2 サーバーで Embedded LOM の WebGUI を実行する場合にサポートされている最低バージョンを示します。

表 1 ブラウザのバージョン番号

	Solaris X86	RHEL 32-bit	RHEL 64-bit	SLES 32-bit	SLES 64-bit	Windows
Mozilla	1.7	1.7.12	1.7.13	1.7.8	1.7.13	N/A
Firefox	1.5.0.4	1.0.7	1.5.0.4	1.5.0.4	1.5.0.4	1.5.0.4
Internet Explorer	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	6

## 各ブラウザでの Java Runtime Environment の設定

Embedded LOM の WebGUI を実行するブラウザでは、Java Runtime Environment (JRE) 5 Update 7 がサポートされている最低バージョンです。Mozilla および Firefox ブラウザ用の JRE 5 Update 7 をダウンロードするには、次の手順に従います。

1. 次の URL にアクセスします。
2. 「Java Runtime Environment (JRE) 5.0 Update 7」の「Download」のリンクをクリックして、自己解凍型バイナリをダウンロードします。
3. お使いのオペレーティングシステムで JRE をインストールする手順については、次の URL をご覧ください。

<http://java.sun.com/javase/downloads/index.jsp>

<http://java.sun.com/j2se/1.5.0/jre/install/html>

---

**注** - 手順に従ってインストールしたら、リモートコンソールが正常に動作するように、プラグインを正しくリンクしてください。

---

## ストリーミングビデオと KVMS Over IP

Embedded LOM の SP の IP 機能を基礎とするキーボード、ビデオ、マウス、およびストレージ (KVMS) は、システムを管理するために作られたものです。大きなビデオ帯域幅を必要とするアプリケーション (ビデオを見るなど) では、KVMS over IP では正常に動作しません。

## SP の CLI コマンドによるシステムの時刻

Embedded LOM の SP に入っている CLI コマンドを使用しても、システムの時刻は表示されません。システムの時刻を表示するには、Embedded LOM の WebGUI を使用する必要があります。

この問題は現在調査中です。

---

## 診断の問題

次の問題は、Pc-Check 診断ソフトウェアのバージョン 6.05 に適用されます。

このセクションでは、次の問題について説明します。

- 11 ページの「Pc-Check が RAID デバイスを識別できない」
- 11 ページの「DIMM が 16 個あるとキャッシュとビデオのメモリーが表示されない」
- 11 ページの「キーボードの LED のテスト中に Pc-Check がハングする」

### Pc-Check が RAID デバイスを識別できない

BIOS で RAID 1 を作成すると、Pc-Check 診断ソフトウェアがそのデバイスを RAID デバイスとして識別できなくなります。

### DIMM が 16 個あるとキャッシュとビデオのメモリーが表示されない

システムに最大数の DIMM が取り付けられていると、ビデオメモリーおよび L1 と L2 のキャッシュメモリーが Pc-Check に表示されません。

### キーボードの LED のテスト中に Pc-Check がハングする

キーボードの LED のテストを行うためのテキストは、診断スクリプトに含まれていません。このテストは手動でのみ実行できます。この問題は現在調査中です。

対処方法：テストの実行をやめます。

---

## Solaris の問題

次の問題は、Solaris 10 オペレーティングシステムが動作している Sun Fire X2200 M2 サーバーに適用されます。

このセクションでは、次の問題について説明します。

- 12 ページの「Solaris Xserver と NIC のインタフェース」
- 12 ページの「Solaris のインストール後に一部の KVM スイッチが同期しなくなる」

### Solaris Xserver と NIC のインタフェース

Solaris Xserver を起動するには、設定したすべてのネットワークインタフェースカード (NIC) をネットワークに接続します。NIC が設定されていない場合、接続する必要はありません。

### Solaris のインストール後に一部の KVM スイッチが同期しなくなる

KVM スイッチ と同じマシンに Solaris 10 6/06 をインストールする際、xserver を起動して OS にログインするとモニターのライトが同期しなくなることがあります。

考えられる対処方法

- テキストモードで Solaris をインストールし、次の手順に従います。
  - a. ツールとドライバの CD から `install.sh` スクリプトを実行します。
  - b. サーバーをリブートします。

`install.sh` を実行すると最新の AST2000 VGA ドライバがインストールされるため、問題が解決されます。

Solaris で `install.sh` スクリプトを実行するための詳細な手順は、『Sun Fire X2200 M2 サーバーオペレーティングシステムインストールガイド』を参照してください。

- KVMS over IP は、Embedded Lights Out Manager (LOM) の GUI とともに使用します。

KVMS Over IP の詳細な手順は、『Embedded Lights Out Manager 管理ガイド』を参照してください。

- GUI モードで Solaris をインストールし、次の手順に従います。
  - a. フェールセーフブートを実行するか、起動前に `xserver` を無効にします。
  - b. ツールとドライバの CD から `install.sh` スクリプトを実行します。

Solaris で `install.sh` スクリプトを実行するための詳細な手順は、『Sun Fire X2200 M2 サーバーオペレーティングシステムインストールガイド』を参照してください。

---

## Linux の問題

次の問題は、サポートされている Red Hat または SUSE オペレーティングシステムが動作している Sun Fire X2200 M2 サーバーに適用されます。

### キーストロークの自動反復

Sun Fire X2200 M2 サーバー上で Linux オペレーティングシステムが動作しているときに文字を入力すると、キーストロークが自動反復します。

対処方法

1. デスクトップメニューから「Preferences (設定)」→「Keyboard (キーボード)」の順に選択します。
2. 「Keyboard repeats when key is held down (キーを押したら反復入力する)」のチェックを解除します。

---

# ドキュメントの問題

このセクションでは、次の問題について説明します。

- 14 ページの「[設置マニュアルの Solaris 10 に関するビデオ出力コマンドが誤っている](#)」
- 15 ページの「[設置マニュアルでの IP アドレスを割り当てるコマンドの誤り](#)」

## 設置マニュアルの Solaris 10 に関するビデオ出力コマンドが誤っている

『Sun Fire X2200 M2 サーバー設置マニュアル』(819-7519-10) の 37 ページ「コンソールの出力をビデオポートにリダイレクトする (省略可)」セクションにある、コンソールの出力をビデオポートにリダイレクトするための次の手順が誤っています。

前述の手順を完了して SP にログインするときに、コンソールの出力をビデオポートにリダイレクトするには、次の引数を使用してプロンプトに `eeeprom` コマンドを入力します。

```
eeeprom output-device=screen
```

```
eeeprom input-device=keyboard
```

次の手順で、コンソールの出力をビデオモニターにリダイレクトします。

1. テキストエディタを使用して、`/boot/solaris/bootenv.rc` ファイルを開きます。
2. ファイル内の次の行を修正して、ビデオ出力を VGA モニターに変更します。  
`setprop console 'text'`
3. サーバーを再起動します。

この情報は、後のバージョンの設置マニュアルで修正されます。

## 設置マニュアルでの IP アドレスを割り当てるコマンドの誤り

『Sun Fire X2200 M2 サーバー設置マニュアル』(819-7519-10) の 18 ページと 25 ページにある、DHCP サーバーがない場合に Embedded LOM の SP に IP アドレスを割り当てるためのコマンドの順序が誤っています。

```
set /SP/AgentInfo NetMask=netmask
set /SP/AgentInfo Gateway=gateway
set /SP/AgentInfo DhcpConfigured=disable
set /SP/AgentInfo IpAddress=ipaddress
```

Embedded LOM の SP に IP アドレスを割り当てるためのコマンドの正しい順序は次のとおりです。

```
set /SP/AgentInfo DhcpConfigured=disable
set /SP/AgentInfo NetMask=netmask
set /SP/AgentInfo Gateway=gateway
set /SP/AgentInfo IpAddress=ipaddress
```

この情報は、後のバージョンの設置マニュアルで修正されます。

